

CCT2025 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。この原稿を書いているのは12月なのですが、皆様にとって今年は良い年ではでしょうか？大阪万博や熊騒動などがありましたね。物価高に追いつかない病院職員の給与に関しては、来年の診療報酬改定に期待する所です。

さて、今回は2025年10月23日から24日まで開催されたCCT2025に参加してきました。CCTとはcomplex cardiovascular therapeuticsの略で、難易度の高い心血管治療を、ライブデモンストラーションを中心に、その技術や知識を共有しようとする国際的な学術集会です。昨年までは神戸で3日開催しておりましたが、規模縮小の波が循環器領域にも押し寄せておりました、なんと木金の2日開催となりました。しかしながら、私は、放射線部門のコースディレクターを務めさせて頂いておりますので、皆様とより良い情報を共有する事を目標に、様々なプログラムを企画させて頂きました。その1が、「冠動脈CTにおけるAI技術の最前線」です。既にAI技術は身近なものになってきていますが、冠動脈CTでキーとなる時間分解能や空間分解能を向上させる技術としてAIが良い仕事をしています。私は座長だけではなく演者としてキヤノンのCLEAR motion cardiacについて話をさせて頂きました。他社でも同様の技術があり、今後の冠動脈CTの底上げに大きく寄与する技術であると思います。とても大きなブレイクスルーですよ。もう1つの放射線関連プログラムとしては、Angio装置を取り上げました。4社の最新情報を提供頂きましたが、キヤノンを含む日本のアンギオ装置の進歩は素晴らしいですね。他社にはありませんが、アンギオ装置に音声認識技術を搭載し、術者が機械と対話しながら検査や治療を進められる時代になってきました。まさにスマート治療室です。未来を感じ

ますね. その他, 私はカテーテル治療で注目されている石灰化病変に対するセッションで「心臓 CT で石灰化を語る」というタイトルで講演しました. 石灰化は診断ではやっかいものですが, 治療の世界では有益な情報となるという側面があります. もう少し定量の精度を高める必要はありますが, 来る CT guide PCI の世界を目指して, 取り組むべき事項であると思っています.

実は, CCT では一般演題発表もあります. 今年は放射線技師からの演題登録も多く, 大変盛り上がりました. その中でグランプリを受賞したのは心臓 CT を用いたストレイン解析でした. 心臓 CT の世界は, まだまだ進歩する余地が多くて, 楽しい領域ですね. 多くの皆様に関心を持って頂き, 来年の CCT に是非参加頂けますと幸いです.

